

新たな「公共圏」モデルの構築

研究代表者 渡 邊 登

1. プロジェクトメンバー

渡 邊 登 (代表者)

芳 井 研 一

佐 藤 康 行

原 田 健 一

中 村 潔

松 井 克 浩

古 賀 豊

杉 原 名穂子

中 村 隆

北 村 順 生

三 谷 武 司

2. プロジェクト概略

本研究プロジェクトは、高度情報化、メディアテクノロジーのグローバルな拡大のもとで、現実の地域社会におけるコミュニケーションが多層的・複合的な「公共圏」を形成するための諸条件の検討を課題としている。

中期計画期間を通じて、本プロジェクトは研究メンバーが各々ないし複数で個々の専門領域から具体的なフィールドへのアプローチによる調査研究を行った。

例えば、「バリ・ヒンドゥー教徒の共同体における慣習の再解釈に関する文化人類学的研究」に関する現地調査（インドネシア共和国バリ州デンパサール市およびカラングスム県）や、韓国の地域社会（全羅北道扶安郡）における地域づくりの事例研究（放射性廃棄物処理場建設反対運動を契機とした地域文化創

造の事例), 東北タイ農村の住民組織活動調査(ソーシャルキャピタルの観点からその可能性を検討), また中越地震・中越沖地震後の地域社会復興の諸条件を
探る調査研究が挙げられる。なお, 以上の調査は著書, 報告書として成果を発表している(7)研究成果の一覧を参照のこと)。

また, 上記に加えて昨年度に引き続き, 本研究プロジェクトのメンバー(原田健一, 北村順生, 古賀豊, 中村隆志)が主体となって, 映像資料の発掘, 調査のみならず, 新たな地域に根ざした映像の製作, さらにそれらの映像の公開, 閲覧ができる仕組みづくりを目指した, 地域社会と連携した実践的な研究プロジェクトとして, 研究プロジェクト「地域文化に関するコミュニカルな映像アーカイブ情報の構築と情報発信」に取り組んでいる。

なお, 本プロジェクト全体としては, 上記の調査研究に関わる以下の講演も開催した。

2010年1月8日(新潟大学)

In search of land for survival?: The case of the Balinese transmigrants in their new settlements in Lampung, Sulawesi, Sumbawa By I Gusti Made Sutjaja, Faculty of Letters Udayana University, Bali-Indonesia

3. プロジェクトの成果

○研究成果の概要と今後の課題

本プロジェクトでは既述したように, それぞれが個別のフィールド(日本, 韓国, インドネシア, タイ等)を対象に, 高齢化問題, 環境問題, 男女平等等々の具体的課題の分析に基づいて公共圏モデルの解明を目指して研究を進めてきており, 本研究は公共圏モデルの仮説的提示にとどまらない, 社会提言を視野に据えた研究でもある。ここでの社会提言とは, 日本学術振興会「人文社会科学振興プロジェクト研究事業」が提唱する「プロジェクト研究の成果を社会への提言として発信し, 現代的諸問題の解決に貢献する」ことを指す。ただし, 本中期計画期間では個別フィールドでの具体的課題分析にとどまっており, 上記の目標は次期の重要な課題となる。

○研究成果の一覧

a) 2007年度

(著書)

- ・松井克浩, 2007『ヴェーバー社会理論のダイナミクスー「諒解」概念による『経済と社会』の再検討』未来社
- ・松井克浩, 2008『中越地震の記憶ー一人の絆と復興への道』高志書院

(調査報告書)

- ・松井克浩編, 2007『「復興」の現状と課題ー三年後の中越地震被災地・小千谷から』新潟県小千谷市消費者協会・新潟大学人文学部松井研究室
- ・新潟県消費者協会編, 2008『新潟県中越沖地震 体験は活かされたかー「中越沖地震後の生活についてのアンケート」調査報告書』新潟県消費者協会・新潟大学人文学部松井研究室
- ・中村潔, 2007『「伝統」の言説: バリ地方紙の文化人類学的研究』(平成17年度~平成19年度科学研究費補助金(基盤(C))研究成果報告書)[課題番号17520554]
- ・Yasuyuki Sato, 2007「The Thai Villager Organization from the Perspective of Social Capital」pp.66-74. 鈴木規之編『東北タイの開発と市民社会の基盤となるプラチャークム(住民による小グループ)』(科学研究費補助金(基盤(B))研究成果報告書)所収, [課題番号17402031]

b) 2008年度

(著書)

- 原田健一編(石井仁志・谷川建司との共編), 2008『占領期雑誌資料大系 大衆文化編 第一巻虚脱からの目覚め』岩波書店
- 原田健一編(石井仁志・谷川建司との共編), 2008『占領期雑誌資料大系 大衆文化編 第二巻デモクラシー旋風』岩波書店
- 原田健一編(石井仁志・谷川建司との共編), 2009『占領期雑誌資料大系 大衆文化編 第三巻アメリカへの憧憬』岩波書店

(論文)

- 松井克浩, 2008「防災コミュニティと町内会ー中越地震・中越沖地震の経

験から」吉原直樹編『防災の社会学—防災コミュニティの社会設計に向けて』東信堂, 59-86頁

松井克浩, 2008「「暮らし」の社会空間」栗原隆編『形と空間のなかの私』東北大学出版会, 121-140頁

松井克浩, 2009「社会学の震災調査と資料収集—新潟県中越地震・中越沖地震の調査を通して」『災害と資料』3, 72-80頁

松井克浩, 2009「社会学—私たちはなぜ変な「思いこみ」にとらわれるのか?」栗原隆編『人文学の生まれるところ』東北大学出版会, 111-129頁

松本彰, 2008「19世紀ドイツにおける男声合唱運動—ドイツ合唱同盟成立(1861年の過程を中心に—) 姫岡とし子, 長谷川まゆ帆, 松本彰他4名『ジェンダー(近代ヨーロッパの探求 11)』ミネルヴァ書房, 111-161頁

松本彰, 2008「市民社会と国家, そして戦争」『Quadrante クアドランテ 地域・文化・位置のための総合雑誌(東京外国語大学海外事情研究所)』No.10, 113-127

三谷武司, 2009「社会システムと法, 経済」, 『社会福祉学習双書』編集委員会(編), 『社会福祉学習双書2009 12 社会学』, 全国社会福祉協議会, pp. 57-73

中村潔, 2009「バリにおける伝統と近代」倉沢愛子・吉原直樹編『変わるバリ, 変わらないバリ』勉誠出版, 52-68頁

Sato, Yasuyuki, 2008, "Thai Villager Organizaions from the Perspective of Social Capital", Suzuki, Noriyuki, *Civil Society Movement and Development in Northeast Thailand*, Khoan Kaen University Book Center, pp.93-112

杉原名穂子, 2009「ジェンダー論—ジェンダーが照射する女性と男性, そして社会」栗原隆編『人文学の生まれるところ』東北大学出版会, 131-146頁

渡邊登, 2008「韓国における地域社会のイニシアティブと市民運動—韓国全羅北道扶安郡放廃場建設反対運動を事例として」『ヘスティアとクリオ』No.7, 41-59頁

c) 2009年度

(著書)

- ・ 原田健一編 (石井仁志・谷川建司との共編), 2009, 『占領期雑誌資料大系 大衆文化編 第四巻 躍動する身体』 岩波書店
- ・ 原田健一編 (石井仁志・谷川建司との共編), 2009, 『占領期雑誌資料大系 大衆文化編 第四巻 躍動する身体』 岩波書店

(論文)

- ・ 松井克浩, 2009, 「中越沖地震被災地のコミュニティとボランティア——柏崎市比角地区の事例」『新潟大学災害復興科学センター年報』 3, 83-101頁
- ・ 三谷武司, 2010, 「社会学の学び方——社会を生き, 社会を学ぶ」, 早坂裕子, 広井良典, 天田城介 (編), 『社会学のつばさ——医療・看護・福祉を学ぶ人のために』, ミネルヴァ書房, pp. 17-31
- ・ 三谷武司, 2010, 「社会システムと法, 経済」(改訂版), 『社会福祉学習双書』 編集委員会 (編), 『社会福祉学習双書2010 12 社会学』, 全国社会福祉協議会, pp. 57-73
- ・ 中村隆志 (大江宏子との共著), 2009, 「モバイル広告・ケータイサイトに関する口コミ経路の調査——『ケータイのディスプレイを見せる行為』の活用——」, 『情報通信学会誌』, Vol. 27-3 (92号), pp. 117-130
- ・ 中村隆志 (大江宏子との共著), 2009, 「非言語コミュニケーション『ケータイのディスプレイを見る行為』における『「気づき」の効果』, 『情報文化学会誌』, Vol.16 (No.1), pp. 1-8
- ・ 中村隆志 (大江宏子との共著), 2009, 「公共空間における非言語コミュニケーションとしての『ケータイのディスプレイを見る行為』」『情報文化学会誌』, Vol. 4, No. 1, pp. 27-38
- ・ 渡邊登, 2010, 「地域社会における新たな場の創造——公共圏構築への試行錯誤——」『スピーチコミュニケーション教育』(日本コミュニケーション学会) 23巻, 35-58頁
- ・ 渡邊登, 2010, 「日本の市民社会の構造——地域社会からの把握」『日本研

究のフロンティア』(国際基督教大学日本研究プログラム), 2010年, 85
-101頁

文化史・文化理論の再構築

研究代表者 佐々木 充

1. プロジェクトメンバー

福 沢 榮 司
佐々木 充
三 浦 淳
齋 藤 陽 一
猪 俣 賢 司
逸 見 龍 生
北 野 圭 介 (2004年度～2005年度)
番 場 俊
石 田 美 紀 (2007年度～現在)

2. プロジェクト概略

文学, 演劇から映画, アニメに至る多様な表象文化を対象とする「文化コミュニケーション論」の研究活動が開始されて10年が経過したが, 各表現媒体の特性の解明や, テキスト分析の精緻化をすすめていくなかで, 一種の停滞感・閉塞感が感じられてきていた。その主たる原因は, これまでの研究教育が精神分析, 構造主義, 記号論からフェミニズム, ポストモダンに至る現代文学・文化理論の導入と応用という形で行なわれ, 研究者自身の拠って立つ文化的基盤を省みた理論的研究の樹立に向けた取り組みが不十分であったこと, また, 個々